

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

■令和6年4月18日(木)

小・中・義務教育学校全校実施

■実施教科 小学校等 … 国語 算数

中学校等 … 国語 数学

## I 教科に関する調査の状況について

### 小学校等 第6学年

教科	国 語	算 数
成果	<p>○「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の内容で全国の平均正答率を上回った。</p> <p>○日常生活から話題について集めた材料をどのように整理したかの説明として適切なものを選択する問題や、メモを基にして事実と考えを区別し、指定の文字数で書く問題において、全国の平均正答率を上回った。</p>	<p>○問題場面の数量の関係を捉え式に表すことができるかをみる問題において、全国の平均正答率を上回った。また、□を用いた加法の式から□の数値を求める技能が定着している。</p> <p>○速さの意味について理解しているかをみる問題において、全国の平均正答率を上回った。</p>
課題	<p>●「知識・技能」の定着をみる問題に課題がみられた。特に、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題に課題がみられた。</p> <p>●主語と述語が離れて表されている場合等、文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかをみる問題に課題がみられた。</p>	<p>●除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかをみる問題や、<math>540 \div 0.6</math>を計算する問題など除法の問題に課題が見られた。</p> <p>●円グラフから数値を読み取る問題や、問題が何を求めているのか読みとる必要がある問題等、丁寧に注意深く取り組む必要がある問題に課題がみられた。</p>
改善策	<p>◎漢字を他の言葉や文、文章との関係から、文脈の中で正しく使うために、グループで漢字を使った文を作って学級で読み合う等の協働的な学習活動を設定する。また、学習による成果物を日常的に積み上げ、別の場面で繰り返し活用する等して定着を図る。</p> <p>◎主語と述語の関係について、低学年から繰り返し指導し、日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりする経験を積みさせていく。その際、「～が」、「～は」、「～も」のように主語の表し方は様々にあることや、主語と述語が離れて表されている場合があることに留意して指導していく。</p>	<p>◎図に表す等して、具体的な場面と、式をつなげ、除数と商の大きさの関係について理解できるようにしていく。また、除法に関して成り立つ性質を活用して、<math>540 \div 0.6</math>と<math>5400 \div 6</math>の商が等しいことを理解できるようにしていく。</p> <p>◎円グラフの目盛りは、円を百等分したものであることを理解し、割合を読み取ることができるように指導していく。</p> <p>◎誤答から答えを吟味することで、与えられた条件と比較して考える力を育てていく。</p>

### 課題のある問題の例

<小学校国語2三ア> 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

三 \_\_\_\_\_ 部を漢字でていねいに書きましょう。

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

⇒ 解答類型(正答)「競技」と解答しているもの 反応率:国(%)43.4 自校(%)

<小学校算数4(1)> 除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる。

4 あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。家から学校までの道のりは、540m です。あいなさんの歩はばを0.6m とします。家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$  の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$  を計算しましょう。

1 900 と解答(正答) 2 90 と解答 3 9 と解答 4 90、9以外の位取りの誤りがあるもの

⇒ 解答類型(誤答)「2」と解答しているもの 反応率:国(%)16.1 自校(%)

中学校等 第3学年

教科	国 語	数 学
成果	<p>○「我が国の言語文化に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の内容で全国の平均正答率を上回った。特に、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかをみる問題において、全校の平均正答率を大きく上回った。</p> <p>○目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする力が定着している。</p>	<p>○複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかをみる問題において、全国の平均正答率を上回った。</p> <p>○事象に即してグラフの数値の意味を解釈する問題やグラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかをみる問題において、全国の平均正答率を上回った。</p>
課題	<p>●文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかをみる問題や目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかをみる問題に課題がみられた。</p> <p>●短歌の内容において、表現の技法について、理解しているかをみる問題や描写を基に捉えることができるかをみる問題に課題がみられた。</p>	<p>●筋道を立てて考え、証明することができるかをみる問題において、課題がみられた。</p> <p>●連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかをみる基本的な問題や、簡単な場合について、確率を求めることができるかをみる問題において課題がみられた。</p>
改善策	<p>◎図表がある場合とない場合を比較し、考えたことを説明し合うことで、筆者が図表等を用いた意図を考えることができるように指導していく。</p> <p>◎目的や必要に応じて、条件を基に要約し、それが目的に沿っているか必要な情報を正確に捉えているかを見直す学習活動を設定する。要約する目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なるということを理解し、適切に要約することができるように指導していく。</p> <p>◎表現が工夫されている文章や詩歌などを取り上げ、表現の技法に着目し、その名称等を確かめた上で、その効果について考えたり自分の表現に生かしたりする等、知識と活用場面が結び付くように指導していく。</p>	<p>◎事柄が成り立つことを証明するためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導していく。</p> <p>◎結論を証明するために使えそうな合同、若しくは相似な図形を全体で共有し、その根拠を議論できるように指導していく。</p> <p>◎連続する二つの偶数を「<math>n+2</math>、<math>n+4</math>」と表した場合を取り上げ、これらの式の<math>n</math>に具体的な整数を代入した時に連続した二つの偶数を表さない場合があることを理解できるようにする等、数量及び数量の関係を文字に表した式で表すことができるようにしていく。</p>

課題のある問題の例

<中学校国語4二>短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

二 下線部に着目して、夕方から翌朝へという時間の流れに沿って順番に並べ替えるとどのようになりますか。A、B、Cを適切に並べ替えて書きなさい。

- |  |       |
|--|-------|
| A まどかなる黄月はいま昇りつつひとたび暮れし雪野を照らす            | 長澤 一作 |
| B 風さやか庭に月待つ萩すすき蝸(ひぐらし)の声やみし夕暮れ           | 外 蘭 隆 |
| C 朝光(あさかげ)のひろびろしきに昨(きそ)の夜のつきかげありしあたりを掃きぬ | 森岡 貞香 |

⇒ 解答類型(正答) B→A→Cと解答しているもの 反応率:国(%)48.3 自校(%)

<中学校数学I> 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる。

① 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表します。 $n$ を整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれ $n$ を用いた式で表しなさい。

1  $2n$ 、 $2n+2$ など(正答) 中略 6  $2n$ 、 $4n$ など 7  $n$ 、 $n+2$ など 8  $n$ 、 $n+1$ など

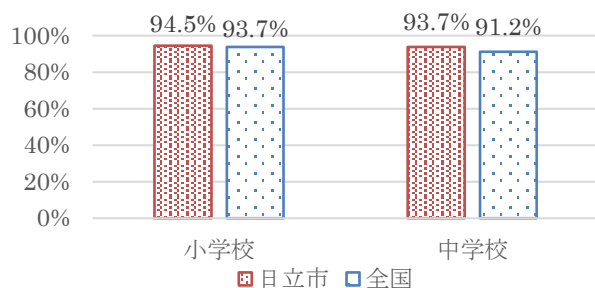
⇒ 解答類型(誤答)「7」と解答しているもの 反応率:国(%)13.0 自校(%)

## 2 質問紙調査の状況について

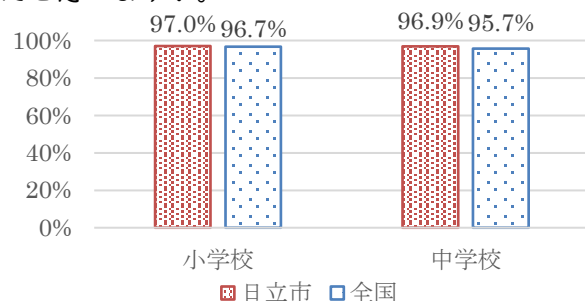
### 生活習慣 規範意識

朝食を毎日食べている児童生徒の割合及び、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている児童生徒の割合は、全国の割合より高い。

朝食を毎日食べていますか。



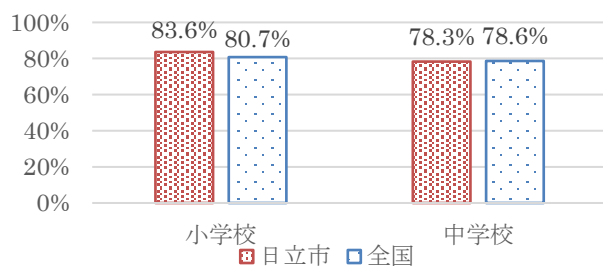
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



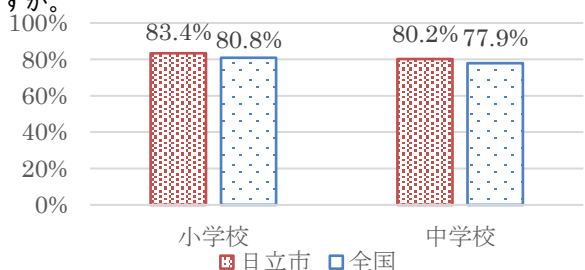
### 学習習慣

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学びを考え、工夫できる児童の割合及び、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学びを考え、工夫することはできていますか。



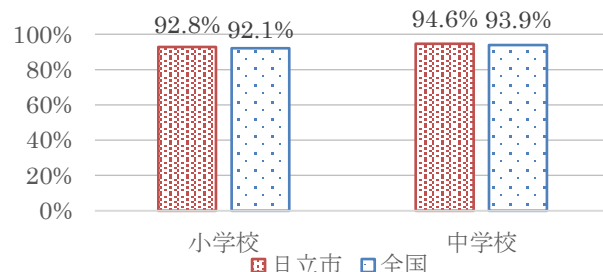
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。



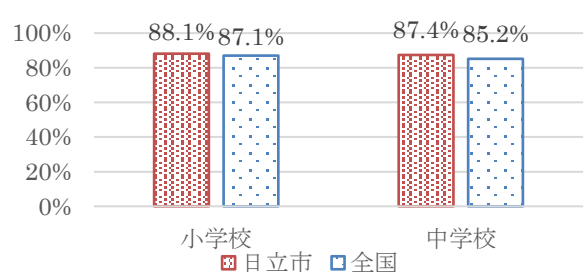
### ICTの活用

ICT機器を使用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる児童生徒の割合及び友達と協力しながら学習を進めることができる児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。

PC・タブレットなどのICT機器を使用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。



PC・タブレットなどのICT機器を使用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができる。



#### 1 質問と正答率との関係

- ・学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童生徒は、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。
- ・携帯電話やスマートフォンを、学習以外の目的でSNSや動画視聴等で活用する時間が長い児童生徒の調査結果に課題がみられる。

#### 2 授業改善に向けて

- ・板書のよさと電子黒板のよさを生かし、児童生徒の思考の流れや学習の足跡がわかる板書構成に心がける。
- ・ICTを効果的に活用した学習者主体の探究的な学習の充実を図る。